The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『詞林』総目次（創刊号～第五十号）
Author(s)	
Citation	詞林. 2011, 50, p. 74-86
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67636
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学古代中世文学研究会機関誌

『詞林』総目次（創刊号～第五十号）

■創刊号（一九八七年三月）

歌合歌に及ぼした屏風歌の影響―その受容と脱却― ……田島　智子
「初恋」題詠歌考 ……佐藤　明浩
源氏物語奥入の系統―大橋本系統を中心に― ……岩坪　健
大江匡房作「大唐大慈恩寺大師画賛」について ……劔持　雄二
定家筆の私家集切―遍昭集・興風集・貫之集・恵慶集・高光集・長能集について― ……伊井　春樹

■第二号（一九八七年一一月）

清輔本古今和歌集内裏切の一分類―顕昭注と基俊本校合を持つ内裏切― ……田島　智子
『一条摂政御集』論―「とよかげ」の部の特質― ……堤　和博
師説自見集「光源氏巻々注少々」の成立過程―冷泉家における『紫明抄』の摂取― ……岩坪　健
「職人歌合」の詠風―『七十一番職人歌合』の場合― ……岩崎　佳枝
引用されたことばと擬声・凝態語と―「引用」の位置づけのために― ……藤田　保幸

■第三号（一九八八年五月）

大島本源氏物語の本文―『源氏物語大成』底本の問題点― ……伊井　春樹
朧月夜の尚侍就任による今上妃との兼帯について―賢木巻断章の新視座として― ……山中　和也
今川了俊の源氏学―「光源氏巻々注少々」から伊予切へ― ……岩坪　健
後葉和歌集の誹諧歌 ……佐藤　明浩
『撰集抄』の方法―仮託説話・非仮託説話併存の意味に向けて― ……近本　謙介

紹介　岩崎佳枝著『職人歌合』……　山本　唯一

■第四号（一九八八年一〇月）

大島本源氏物語の本文―書入れ・ミセケチ一覧（一）―……　伊井　春樹

「桐壺」～「夕顔」諸本の検計―データベース活用の初歩的試み―……　大谷　晋也

紫上の論―中の品の女性として―……　胡　秀敏

定家所用本『狭衣物語』―『百番歌合』依拠本文の考察―……　西臺　薫

大江匡房作「大唐大慈恩寺大師画讃」について・続考……　劔持　雄二

■第五号（一九八九年四月）

藤原登子について……　島田とよ子

徳川美術館蔵『住吉物語絵巻』の絵詞について……　伊井　春樹

花屋玉栄詠『源氏物語巻名和歌』（解題と翻刻）……　伊井　春樹

一休宗純の林和靖賛について……　中本　大

「名づける」「呼ぶ・いう」の引用論（一）……　藤田　保幸

■第六号（一九八九年一〇月）

大君論序説……　渡會　敦幸

土佐光則筆『源氏物語画帖』について……　伊井　春樹

きつねとゾンガラス―秋成文学の一つの背景―……　姜　錫元

幕末の女流歌人・中西為子……　管　宗次

「名づける」「呼ぶ・いう」の引用論（二）……　藤田　保幸

■第七号（一九九〇年四月）

『御裳濯河歌合』俊成判序文の検討……　佐藤　明浩

『異本紫明抄』の性格―依拠本文と校異をめぐって―……　岩坪　健

往生伝としての『とはずがたり』試論―夢を媒介として―……　阿部　真弓

カリフォルニア大学バークレー校所蔵『百人一首秘註』と中院通村の百人一首注『後十鈔』……　田島　智子

言霊学者・高橋残夢……　管　宗次

■第八号（一九九〇年一〇月）

『一条摂政御集』の他撰部についての一考察―詞書を中心として―……　堤　和博

平安時代に於ける庚申信仰……　島田とよ子

『御裳濯河歌合』俊成判の批評態度―歌合判詞の読解をめぐって― ……佐藤　明浩
浄土宗談議書における説話覚書（一）……近本　謙介
項目列記の「～ト」表現について ……藤田　保幸

■第九号（一九九一年四月）
屏風歌歌人としての貫之―「草木」をめぐって― ……田島　智子
拒否する女たち―宇治三姉妹の考察― ……渡會　敦幸
寛仁二年頼通大饗屏風和歌とその場面 ……伊井　春樹
「多情」攷―江西龍派詩に見える詩語の解釈をめぐって― ……中本　大
ロドリゲス日本大文典の不完全過去について ……福田嘉一郎

■第十号（一九九一年一一月）
〈特集：『是則集』注釈〉
第十号の発行によせて ……伊井　春樹
『是則集』注釈・補注
解題―坂上是則と『是則集』― ……堤　和博
定家本『是則集』について ……伊井　春樹

■第十一号（一九九二年四月）
紫上の運命と明石の君―「初音」巻を中心に― ……胡　秀敏
菊亭本『文机談』の性格―伏見宮本との比較を中心に― ……中原　香苗
『西行物語』に描かれた西行像―文明本を中心として― ……山崎　淳
『とはずがたり』に見られる『夜の寝覚』摂取の様相―人物造型を中心に― ……阿部　真弓
中世末期口語における～テゴザルと～テゴザッタ―中世語動詞のテンス―アスペクト体系の一班― ……福田嘉一郎

■第十二号（一九九二年一〇月）
桜が散ること―古今集桜歌の漢詩文基盤― ……滝川　幸司
忠平の禁色聴許について―蘇芳（下）襲を通して― ……島田とよ子
成尋阿闍梨の渡宋―『成尋阿闍梨母集』覚え書き― ……伊井　春樹
接続詞「でも」「それでも」「ところが」「それどころか」をめぐって ……赤羽根義章

■第十三号（一九九三年四月）

〔資料紹介〕三手文庫蔵『古今秘抄』……近本　謙介

紫の上の退場―女三の宮・明石の君との相対関係をめぐって―……胡　秀敏

接続詞「すると」「そうすると」「とすると」「と」をめぐって……藤田　保幸

■第十四号（一九九三年一〇月）

『本院侍従集』考―配列に施された虚構を中心として―……堤　和博

源俊頼の歌学知識と和歌実作……佐藤　明浩

『弁内侍日記』における人物描写―九条家を中心に―……阿部　真弓

『養老縁起』―解題と本文―……伊井　春樹

ラシカッタという言い方についての覚書……福田嘉一郎

■第十五号（一九九四年四月）

〈特集：『松浦宮物語』〉

松浦宮物語の方法……伊井　春樹

『松浦宮物語』に見える須磨、明石巻の影……阿部　真弓

『松浦宮物語』における先行物語摂取の様相―弁少将の琴伝受と華陽公主との恋の場面をめぐって―……中原　香苗

『松浦宮物語』における万葉歌利用……田島　智子

『松浦宮物語』における狭衣和歌の影響……長尾佐知子

『松浦宮物語』における漢籍利用に関するいくつかの問題……中本　大

『松浦宮物語』と「松浦」関係説話……海野　圭介

『松浦宮物語』の構想と周辺の文芸―長谷・住吉から弁少将の造型に至る―……近本　謙介

『松浦宮物語』における神奈備皇女の位置付け……山崎　淳

橘氏忠の官職について……滝川　幸司

■第十六号（一九九四年一〇月）

〔資料紹介〕慶応義塾大学附属図書館蔵『西行繪詞』……山崎　淳

『源氏物語』の引歌一首―「神無月いつも時雨は……」―……堤　和博

釋浄弁『古今集注』所引の『古今集』本文をめぐって……海野　圭介

引用されたコトバの記号論的位置づけと文法的性格
……藤田　保幸

■第十七号（一九九五年四月）
道長詠「この世をば」歌の背景―長和・寛仁年間の道長と実資―……田島　智子
歌人弁内侍にとっての『弁内侍日記』試論
……阿部　真弓
永正八年七月二十五日御会和歌懐紙について
……伊井　春樹
『狭衣下紐』の基礎的背景……川崎佐知子
思考・発話の内容節として働く「～ヨウニ」について
……藤田　保幸

■第十八号（一九九五年一〇月）
内宴考……滝川　幸司
三巻本『枕草子』勘物考―官職についての勘物をめぐって―
……藤本　修司
源氏物語宇治十帖のことばの線……加藤　昌嘉
〔資料紹介〕内閣文庫蔵『舞楽雑録』……中原　香苗
〔資料紹介〕翻刻　新出『沢庵宗彭詩書巻』
……中本　大

■第十九号（一九九六年四月）
〈特集：『十七番詩歌合』注釈〉
『十七番詩歌合』について……伊井　春樹
『十七番詩歌合』注釈……滝川　幸司
『十七番詩歌合』解説……海野　圭介
……海野　圭介
……滝川　幸司

■第二十号（一九九六年一〇月）
保坂本源氏物語の表現―「けはひ」と「けしき」―
……伊井　春樹
長城の光景―『今昔物語集』の始皇帝説話を窓にして―
……大村誠一郎
『勧学院物語』と天台談義所……箕浦　尚美
鑑定筆記抄（一）―小杉榲邨の古美術調査の世界―
……伊井　春樹
文法論の対象としての「引用」とは何か？―統語論的引用論の前提として―……藤田　保幸
『詞林』〈創刊号～第二十号〉総目次

■第二十一号（一九九七年四月）
花宴考……滝川　幸司

際立ちゆく〈琴の一族〉―「蔵開」の巻より―
……芦田優希子
連動する源氏物語―笛を吹くこと― ……加藤　昌嘉
萩原広道の文章法則論とその『源氏物語』への適用、付法則の索引 ……パトリック・カドー
西洋における『源氏物語』の受容―英語訳と教育に見る―
……胡　秀敏

■第二十二号（一九九七年一〇月）
詩臣としての菅原道真 ……滝川　幸司
光源氏の運命―藤壺事件の深層を中心として―
……朴　貴仙
八宮の「本心」と薫の「誤解」―薫に見る「昔物語」からの逸脱・序章― ……中川　照将
『三代集之間事』考（上） ……海野　圭介
『現存和歌六帖第二』の研究 ……中村　友美

■第二十三号（一九九八年四月）
『源氏物語』第一部の構造―〈もののさとし〉の機能をめぐって― ……藤井由紀子
『三代集之間事』考（下） ……海野　圭介
お伽草子と女人往生の説法―『ゑんがく』『花情物語』『胡蝶物語』を中心に― ……箕浦　尚美
『鳥歌合』覚書 ……山崎　淳
『鳥歌合』（翻刻） ……伊井　春樹

■第二十四号（一九九八年一〇月）
伊勢の涙 ……加藤　雄一
光源氏の須磨流離と尸解仙―聖徳太子引用による物語生成― ……岡田ひろみ
四条隆親に関する一考察―『とはずがたり』の背景として―
……赤木ひと美
The Problem of Defining Japanese Critical Terminology:Motoori Norinaga's Explanation Of '*Aya*'
（和歌論用語を定義すること―本居宣長の「文（あや）」をめぐって―）
……Mark Meli

■第二十五号（一九九九年四月）
〈特集：『しのびね物語』〉
『しのびね物語』論―現存本から古本へのまなざし―
……伊井　春樹
『しのびね物語』における人物の属性 ……中川　照将
『しのびね物語』の基底―源泉としての『源氏物語』明石一族の物語― ……藤井由紀子
『しのびね物語』のコトバの網―王朝物語世界の中の―
……加藤　昌嘉

『しのびね物語』の引歌 …… 中村　友美
『しぐれ』考 …… 箕浦　尚美

■第二十六号（一九九九年一〇月）
「長能私記」逸文攷―『塵荊鈔』の位相― …… 松原　一義
『源氏物語』藤壺の宮の出家 …… チョーティカプラカーイ・アッタヤ
『しのびね物語』の構造―「長恨歌」を視点として― …… 米田真理子
中院家旧蔵古今和歌集注釈関連資料考（一）―中院通茂・中院通躬・野宮定基との関わりを持つ典籍を中心に― …… 海野　圭介
新出『葵の二葉』『底の玉藻』及びその周辺資料について …… 福田　安典

■第二十七号（二〇〇〇年四月）
恵慶と伊勢の歌―その接点を求めて― …… 加藤　雄一
「楼の上」から「幻」へ―物語終焉の視座から― …… 越野　優子
『源氏物語』松風巻〈大堰川のわたり〉考 …… 岡田ひろみ
「静かなる」六条院―『源氏物語』藤裏葉巻の栄華の実相― …… 藤井由紀子
『源氏物語』における〈死〉と〈ゆかり〉―紫の上の死を中心に― …… 市川　範子
源氏物語　宿木巻の機構（メカニズム）―反・明石夕霧の力、浮舟の力― …… 加藤　昌嘉

■第二十八号（二〇〇〇年一〇月）
源氏物語の心理描写―豊子愷訳に見る自然・引歌・心中思惟― …… 胡　秀敏
「物のあはれ」の三つの要素 …… マーク・メリ
〈小特集：留学生から見た日本文学研究〉
中国における日本古典文学研究の状況 …… 謝　立群
韓国における日本古典文学研究 …… 朴　貴仙
ニュージーランドにおける日本に関する研究 …… アン・コモンズ
スロヴァキアとスロヴァキアの日本学科について …… エヴァ・ルカーチョヴァー
タイにおける日本文学 …… チョーティカプラカーイ・アッタヤ
チャトゥラセンパイロート・マッタナー
英語圏における円地文子に関する研究 …… ゾーイ・ジェスティコ

〈海外研究者だより〉……パトリック・カドー

■第二十九号（二〇〇一年四月）
『うつほ物語』二者一対の法……加藤　昌嘉
『長承二年相撲立詩歌合』考―撰詩・撰歌および人選の方法―……小山　憲美
第二種七巻本『宝物集』「跋文」考―平康頼と藤原親盛をめぐって―……中川　真弓
『徒然草』における盛親僧都像と中国の隠逸者……謝　立群

■第三十号（二〇〇一年一〇月）
六条院崩壊の論理―『源氏物語』若菜巻における―……藤井由紀子
『石清水物語』における男主人公の心理と物語の論理……井　真弓
源氏物語系図研究序説―本文資料的価値を離れて―……楠　なおみ
宗祇の古典学―源氏物語研究の意義とその伝流―……伊井　春樹

■第三十一号（二〇〇二年四月）
菅原清公伝年譜―附「菅原清公伝考」補遺―……滝川　幸司
藤原実光考―院政期儒者論（一）―……仁木　夏実
『徒然草』第二十一段考―「人遠く、水草清き所にさまよひ歩きたる」を中心に―……謝　立群
古筆切の中の「仁和寺華厳院弘融」のこと―伊賀常楽寺蔵兼好・頓阿・弘融三幅対をめぐって―……米田真理子
猪苗代兼寿『狭衣物語抄』の関連資料……川崎佐知子
円地文子『妖』論―花瓶の役割を中心に―……ゾーイ・ジェスティコ

■第三十二号（二〇〇二年一〇月）
『うつほ』の仲澄―作り物語の手法と指向―……加藤　昌嘉
『源氏物語』の出家の表現―男女の違いをめぐって―……チョーティカプラカーイ・アッタヤ
『徒然草』第十八段考―許由と孫晨の故事をめぐって―……謝　立群
『金玉要集』覚書―その本文を中心に―……山崎　淳
"Fence" as metaphor in Heian literature.Part1（比喩としての「垣」（上））……Teresa Martínez Fernandez

■第三十三号（二〇〇三年四月）

〈小特集：中村本『夜寝覚物語』〉

中村本『夜寝覚物語』の〈夢〉の論理 …… 藤井由紀子

中村本『夜寝覚物語』における幸福的結末の論理—第二予言の表現と「結構」としての明石御方物語— …… 中井　賢一

中村本『夜寝覚物語』最終場面の意味について—改作本『寝覚』は〈幸福〉なる物語であるか— …… 中川　照将

中村本『夜寝覚物語』のことばと方法—情意性形容詞を中心にして— …… 中村　一夫

八代和歌抄切の検討と解釈—中世散逸私撰集の一考察— …… 井　真弓

■第三十四号（二〇〇三年一〇月）

『落窪物語』・現実への志向—衣の記述を視座として— …… 鈴木麻里子

光源氏の〈琴の琴〉—第一部における— …… 和田　美香

随心院蔵『峯殿詠哥集』考 …… 海野　圭介

"Fence" as metaphor in Heian literature.Part2（比喩としての「垣」（下）） …… Teresa Martinez Fernandez

■第三十五号（二〇〇四年四月）

伊井春樹教授御退官記念特集号

三十五号の発刊に寄せて …… 伊井　春樹

〈山がつ〉めく光源氏—須磨流離の姿— …… 岡田ひろみ

玉鬘の裳着—養女となる次第— …… 倉田　実

柏木不在の論理—柏木・弁少将の機能と夕霧・弁少将の対峙の構造— …… 中井　賢一

伝国冬本源氏物語の世界—藤裏葉巻をめぐって— …… 越野　優子

『石清水物語』の後日談に示される「不義の子」の可能性とその意義 …… 井　真弓

三巻本『枕草子』の和歌—定子と清少納言の交流を中心に— …… 佐藤　雅代

定家の百首歌における「有明」—四季歌を中心に— …… 細川知佐子

■第三十六号（二〇〇四年一〇月）

泣く昔男—『伊勢物語』の物語構成— …… 木下　美佳

玄宗・楊貴妃・安禄山と桐壺帝・藤壺・光源氏の寓意—続古事談から見る源氏物語— …… 荒木　浩

『大鏡』における「魂」観の再検討 …… 石原のり子

『春日社司祐範記』連歌年表 …… 川崎佐知子

■第三十七号（二〇〇五年四月）

〈特集：願文の世界〉

諷誦文考補 ……後藤 昭雄

『江都督納言願文集』と『荘子』「逍遙遊」 ……李 育娟

院政期願文における「治天の君」像―藤原永範の鳥羽院関連願文を中心に― ……仁木 夏実

『菅芥集』についての基礎的考察 ……中川 真弓

〈擬作〉の周辺―随心院本『啓白諸句』解題の補足をかねて― ……荒木 浩

■第三十八号（二〇〇五年一〇月）

「柏木」、「柏木の右衛門督」、「柏木権大納言」のこと―享受史を辿りつつ― ……越野 優子

『大鏡』における天皇の〈声〉―一条天皇と三条天皇を中心に― ……石原のり子

『建礼門院右京大夫集』前半部の構成 ……丹下 暖子

『徒然草』第七段と「荘子」再考―「夏の蝉」をめぐって― ……陳 秉珊

堀内昌郷『源註遺言』について―天保期の源氏物語研究者の一動向― ……福田 安典 山中 雅代

■第三十九号（二〇〇六年四月）

曲水宴考証 ……滝川 幸司

菅原道真の白色好尚と日本的美意識―白い花を詠む詩を通して― ……高 兵兵

薫の人物造型 ……白 雨田

『とはずがたり』における女性の装束描写―東二条院の書状による影響― ……高嶋 藍

「持戒清浄印明」考 ……中山 一麿

■第四十号（二〇〇六年一〇月）

「宮仕へ」する昔男―『伊勢物語』における機能― ……木下 美佳

「と」の気脈―平安和文における、発話／地／心内の境― ……加藤 昌嘉

『定家卿百番自歌合』三次本への改訂―四季と恋― ……細川知佐子

頼意僧正伝記考―南朝参仕の一僧侶歌人の生涯― ……勢田 道生

信多純一氏蔵文政五年書写六段本『天狗之内裏』解題・翻刻 ……箕浦 尚美

■第四十一号（二〇〇七年四月）

宇治十帖〈解体〉と〈閉塞〉の論理（上）……中井　賢一

僧侶の神仙術としての避穀―『本朝神仙伝』を中心にして―……李　育娟

『徒然草』第九十七段における「荘子」再考……陳　秉珊

『観音冥応集』と宝泉寺縁起―蓮体の備中における書写活動をめぐって―……中川　真弓

『観音冥応集』出典考―巻第三8話を例として―……山崎　淳

■第四十二号（二〇〇七年一〇月）

宇治十帖〈解体〉と〈閉塞〉の論理（下）……中井　賢一

物語における斎宮のモチーフとその効果―『栄花物語』当子内親王密通記事に関連して―……井上　真衣

『定家卿百番自歌合』三次本への改訂―雑部改訂から探る時期と意図―……細川知佐子

『源氏物語大成』の三条西家本……加藤　洋介

島原松平文庫蔵『南方紀伝』をめぐって―『南方紀伝』仮名本先行説の再検討―……勢田　道生

■第四十三号（二〇〇八年四月）

中古王朝物語の会話文―地の文との境界をめぐって―……黒木　邦彦

藤本真理子

清田　朗裕

森　勇太

『石清水物語』にみる男君たちの女性観―秋の中納言と伊予守の根源的な差異―……井　真弓

「御製のそばに」―鎌倉期勅撰集における「身分序列的配列」―……村山　識

『壒嚢鈔』年中行事記事の基礎的検討―中世後期〈『年中行事歌合』／『公事根源』〉享受史のために―……野上　潤一

蓮体所持本『沙石集』について―前稿の補足を兼ねて―……山崎　淳

■第四十四号（二〇〇八年一〇月）

願得寺蔵『疑開和歌抄』解題と翻刻……村山　識

『夢の通ひ路物語』主題分析（二）―岩田中将・かざしの君物語の意義―……井　真弓

秘伝の相承と楽書の生成（1）―〔羅陵王舞譜〕から『舞楽手記』へ―……中原　香苗

夢を見ることを忘れた頃に―安西法師の奇蹟―……福田　安典

大阪大学古代中世文学研究会二〇〇回記念例会の報告

■第四十五号（二〇〇九年四月）

ナタ形指示詞の空間・時間における方向性―平安時代を中心に― ……藤本真理子

世を倦じ山と人はいふ―喜撰歌と八の宮をめぐって― ……荒木　浩

『讃岐典侍日記』上巻の一側面―天皇の代替わりという過渡期をめぐって― ……丹下　暖子

『年中行事歌合』広本の基礎的検討―『太平記鈔』巻二十四との同文関係をめぐって― ……野上　潤一

資料紹介・陽明文庫蔵「近衛基熙消息」 ……川崎佐知子

■第四十六号（二〇〇九年一〇月）

『山家集』「心におもひけることを」歌群の再検討―仏典から捉える二つの心― ……前田　泰良

『夢の通ひ路物語』主題分析（三）―六条の君入水譚にみる恋愛観― ……井　真弓

秘伝の相承と楽書の生成（2）―〔羅陵王舞譜〕から『舞楽古記』へ― ……中原　香苗

『伊勢物語愚見抄』における人物比定の方法 ……木下　美佳

■第四十七号（二〇一〇年四月）

平安文学における五行の象徴とその機能―『土佐日記』と『竹取物語』をめぐって― …スワンラダー・アッタヤ

『伊勢物語肖聞抄』における作者説―注釈との関わりをめぐって― ……渡部　真由

『とはずがたり』の「恩」―伏見再会の場面を視座として― ……高嶋　藍

忠阿上人の生涯 ……中山　一麿

「大阪大学・チュラーロンコーン大学日本文学国際研究交流集会」活動報告

Female Anger in the literature of Heian period（平安文学における女性の怒り） ……Nalbandian Karine

■第四十八号（二〇一〇年一〇月）

『源氏物語』における「岩根の松」―賀歌の変容― ……白　雨田

『源氏物語』と中世王朝物語の距離―「わららか」・「寝くたれ」の表現史― ……藤井由紀子

奥入付載の定家本源氏物語―飯島本藤袴巻の場合― ……加藤　洋介

与謝野晶子『新訳源氏物語』の成立―その本文生成に依拠したテキストは何であったかを中心にして―　……　宮本　正章

■第四十九号（二〇一一年四月）

勅撰集の中の入内屏風和歌―作者・詞書を手がかりに―　……　細川知佐子

『松浦宮物語』の物語構造―主人公と女君たちとの相対的位相―　……　井　真弓

真名本『曽我物語』における大磯の虎―苦悩の克服と愛執の様相―　……　カナパット・ルーンピロム

■第五十号（二〇一一年一〇月）

〈特集：典籍の享受と学問の諸相〉

失われた定家本源氏物語―飯島本桐壺巻の場合―　……　加藤　洋介

『河海抄』における歌学書引用の実態と方法―顕昭の歌学を中心に―　……　松本　大

『五常内義抄』の享受と『聖徳太子御憲法玄恵註抄』（上）―『五常内義抄』と憲法学の交叉をめぐって―　……　野上　潤一

津久井尚重の研学と交流―附・名古屋市蓬左文庫蔵『講席余話并抄出』所収学統図翻刻―　……　勢田　道生

『詞林』総目次（創刊号～第五十号）